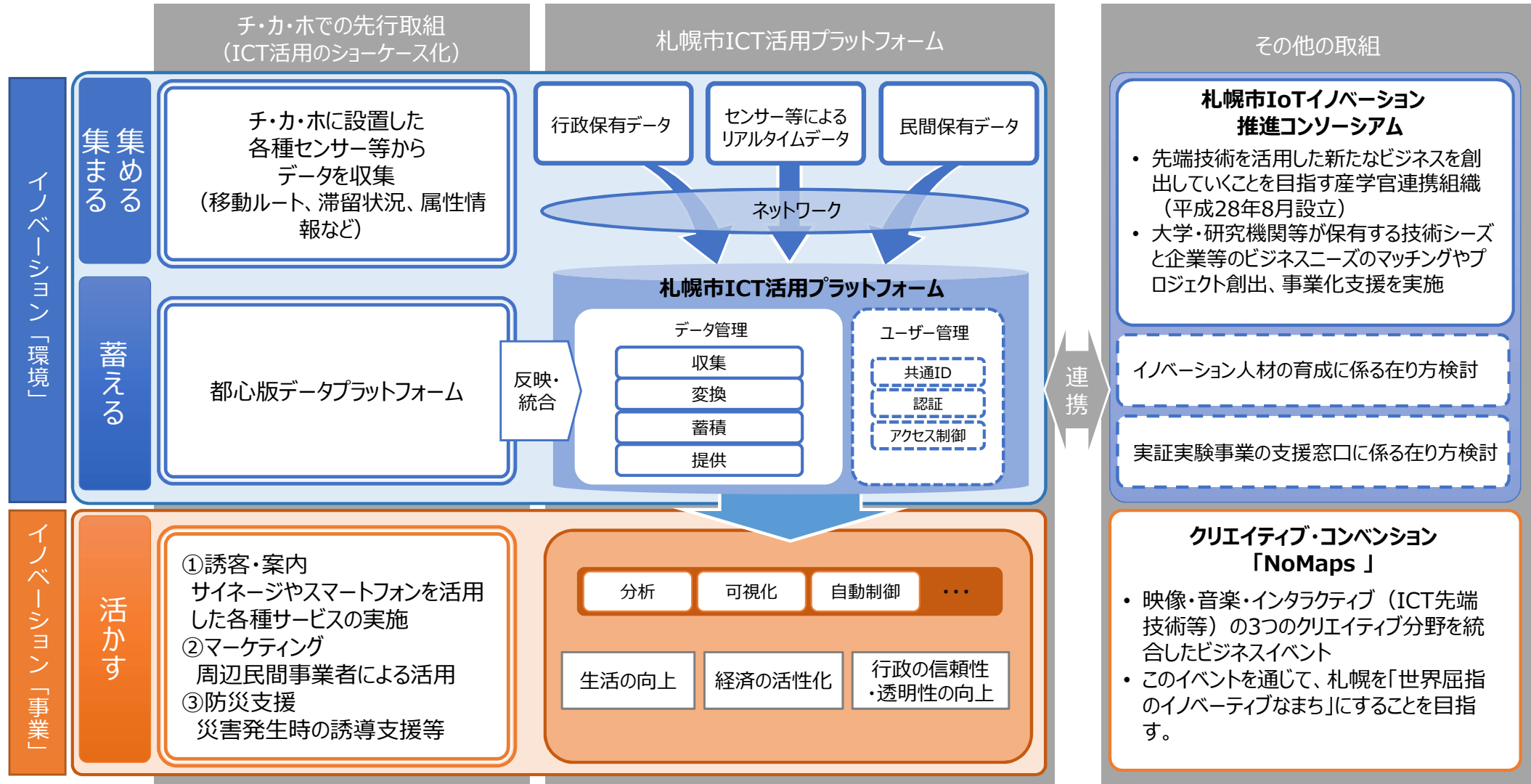


産業構造審議会 新産業構造部会資料

# 札幌市のICT活用の取組みについて

平成29年4月27日

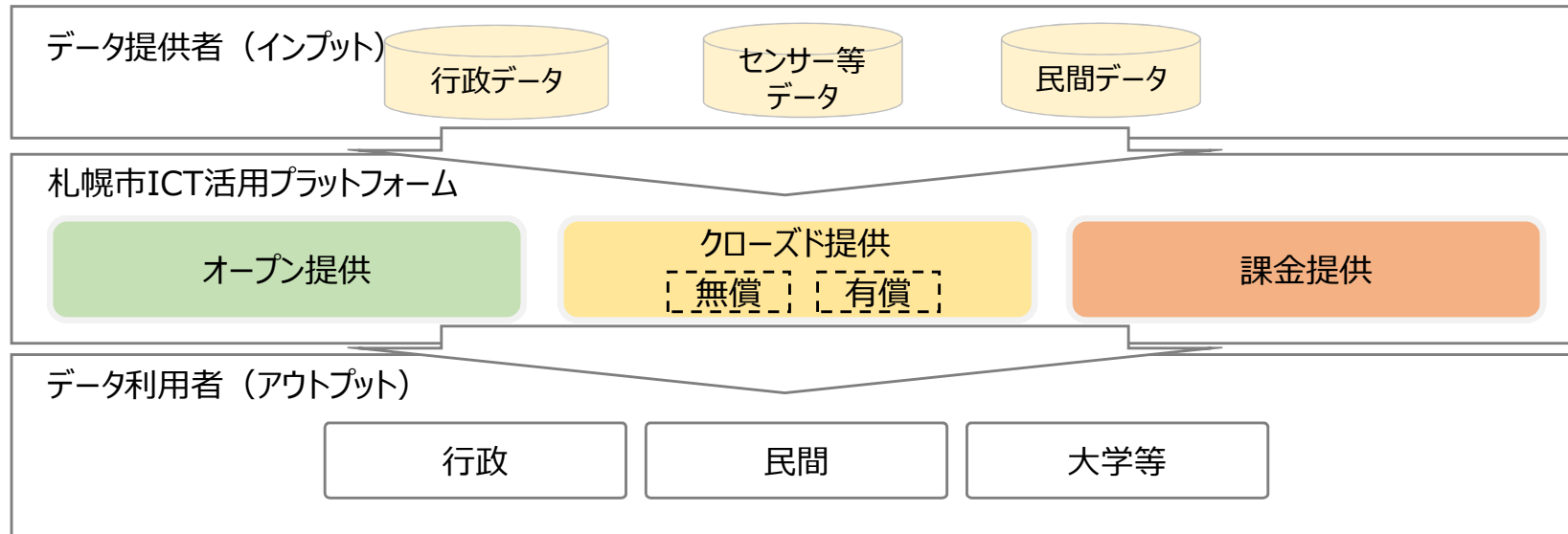
# 札幌市ICT活用戦略 イノベーション・プロジェクト取組イメージ



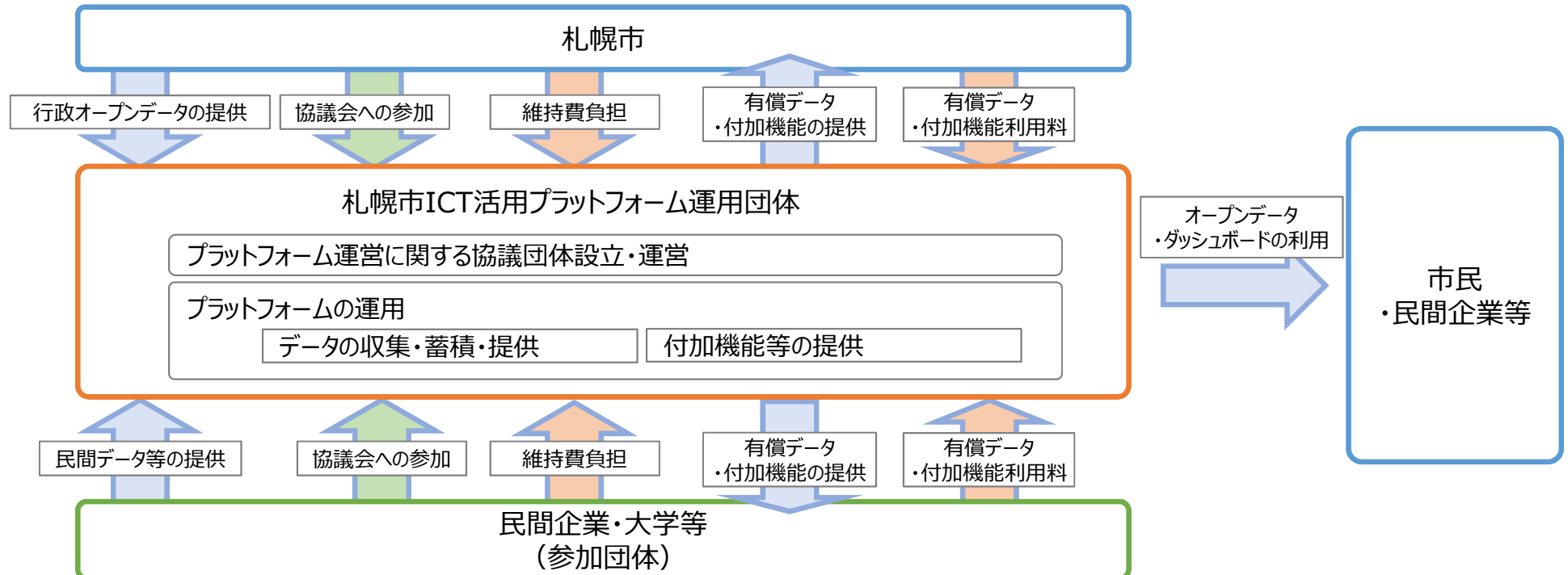
Sapporo Value (札幌の価値) の創造と向上

# 札幌市ICT活用プラットフォームイメージ

## プラットフォームイメージ

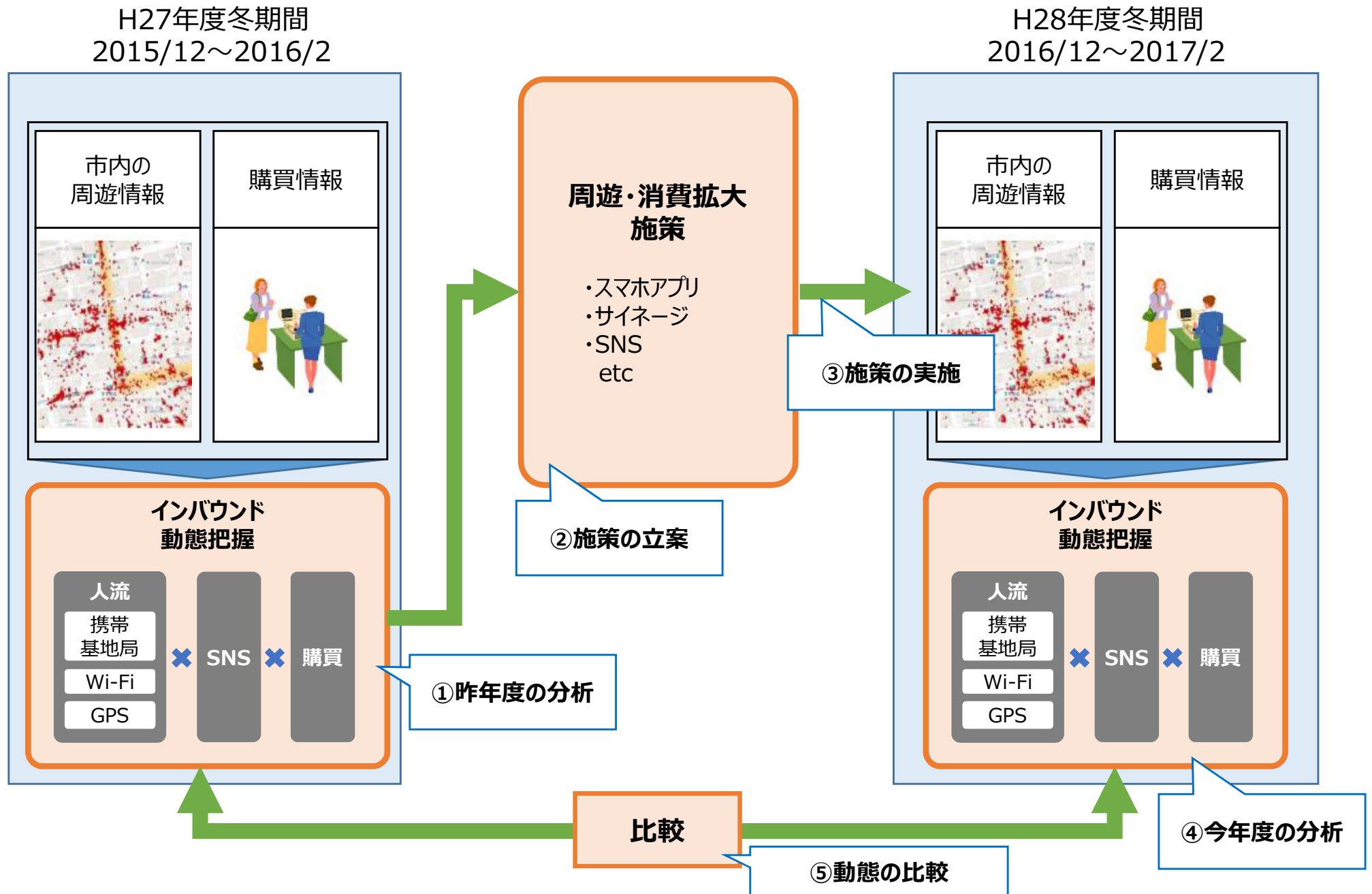


## 運用体制イメージ



# 観光分野における実証事業概要

## インバウンド観光客の動態可視化およびICT施策による周遊・消費拡大の実証

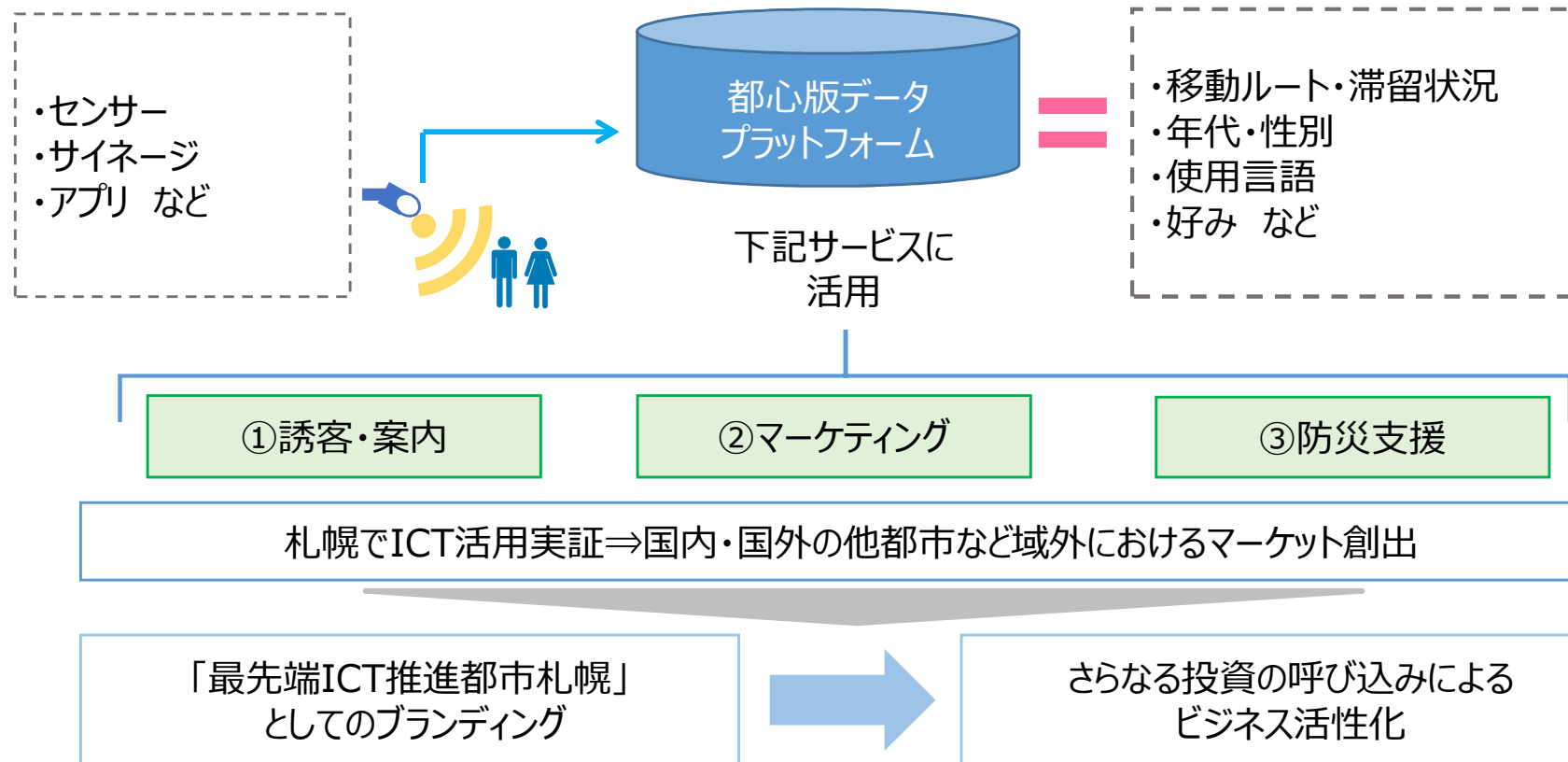


# 地下空間におけるICT活用実証実験事業

## 概要

札幌駅前地下歩行空間（チ・カ・ホ）に、センサーや双方向型サイネージ等を設置することにより、人流情報や属性情報を収集・蓄積することで「都心版データプラットフォーム」を構築し、民間でのデータ活用推進、効率的な避難誘導の実証実験を行う。

## 活用・展開イメージ



赤外線センサー、カメラセンサー、BLEビーコンと連動したスマホアプリ、サイネージと連動したタッチセンサー等を候補とした、様々なセンサーから情報収集することを想定

# 地下空間における実証実験 カメラ画像によるデータ取得について

## 【データ取得の概要】

- ・ カメラ画像からデータを取得するが、個人を把握するものではない
- ・ 画像自体は記録せず、年代・性別等の属性データを取得した時点で廃棄する
- ・ 意図せず撮影されることが無い様に下記の対策を実施
  - 事前把握 → 掲示等で実施内容を告知
  - 撮影場所 → サイネージの前のみ限定
  - 画角 → 意図しない人物が撮影されないよう調整

プライバシー保護に配慮して実施

## 【報道機関等の意見】

- ・ 悪意を持った人がカメラを利用するリスクがあるのではないか。
- ・ カメラで顔を写す事は、顔認証にあたるのではないか。
- ・ 取得した情報の流出については、慎重な対応が必要なのではないか。

- ・ 「顔認証」実施との報道が出て以来、市民の不安が高まった
- ・ 「不安に思う」と「実施すべき」の双方の意見が寄せられたが、ともにカメラによる個人認証が前提
- ・ もともとカメラセンサーにより個人を認証する予定は無い事を説明してきたが、短期の実証実験期間中には賛成・反対ともに納得いく議論にはならないと判断
- ・ 誘客案内やマーケティング、防災支援において活用されるデータについては、赤外線センサーによる人流データ、BLEビーコンを使用したアプリケーション、サイネージと連動したタッチセンサー等で収集する

札幌市として、本実証ではカメラセンサーを設置しない方針を決定※

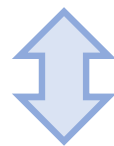
※大学などの研究機関や民間企業が設置できる環境は整える予定

## 公共空間の例

地下歩行空間、広場、地下鉄コンコース、etc



- 日常的な生活に結びついており、回避手段を講じることが困難であることから、カメラ等によるデータ取得行為は、市民生活に制限をかけている様に受け止められ、理解が得られにくい
- 行政が主体的に実施することへの強い抵抗感 → プライバシーの侵害、監視社会への懸念



民間施設・サービスに対する認識との違い

→不安があれば利用しなければ良い

→本人が享受できるメリットが大きく、わかりやすい

個人が納得する方法で、価値の高いパーソナルデータが円滑に流通するには

## パーソナルデータ取得・活用に対する提供者側の期待と不安

- 期待要素
- ・ 提供者本人が享受できるメリットへの期待
  - ・ データの活用による生活や社会の向上に対する期待
  - ・ 社会的な意義への貢献への期待

- 不安要素
- ・ 目的外に利用されることへの不安
  - ・ 本人が意図しない情報収集への不安
  - ・ 匿名化等の非識別加工に対する不安
  - ・ 情報漏えい・不正アクセス等に対する不安

現状は不安要素が期待を大きく上回っている

・政策ビジョンの浸透や、データを管理する基盤のルールや法の整備、匿名化加工等の明確なガイドラインの整備等による不安要素の除去

・ICTイベントや展示会、学会等、理解の得られやすい場における実証実施と、十分かつ適切な広報活動によるメリット感、意義の定着化